

知事発言概要

- 教育しか資源が無いなか、教育の資質の向上のため、府大市大統合の際に新しい学部として教育学部の設置を府市統合本部で検討したい。統合にあたり重複学部を再編することで人件費等経費削減を図り、この新しい学部投資していきたい。(23年12月2日 知事囲み取材)
- 統合後の大学における教育学部の中身については、今後専門家を交えて議論していきたいと考えている。(23年12月6日 知事囲み取材)
- 市立大学との統合については、それぞれの強みを活かすことにより、大阪の成長戦略を支えるハイエンド人材の育成や、さらに高度な研究開発が可能となるなど、日本を代表するような大学、アジアでも強い大学になるものと考えている。(24年2月27日 府議会代表質問)
- まず法人を一元化しそれぞれのいいところを取り込み、学生にしっかりと知識とサービスを提供できる形になるのが一番。工学部の強い府大と、医学部のある市大がそれぞれの強い部分でどう連携していくか、これが大阪の経済、産業につながる。医療機器等で新しいものが発明されるなど大きな期待を持っている。(24年4月11日 記者会見)

市長発言概要

- 統合については、専門的知識を持つ方々で複数案をつくって判断する。統合のメリットは、府と市の交付金をひとつにし、学部を再編して最大の投資効果を生み出すこと。アジアの大学間競争に打ち勝てる大学にしたいために、学部再編で強みを出す。(23年12月22日 市長囲み取材)
- 市大が勢いを失いつつあるのは、学長が世の流れを見て適切に人事を行えないから。学長のマネジメントを阻害しているのが教授会であり、これを徹底的に改革していく。(24年3月2日 市会代表質問)
- 教育学部の設置は大きな目玉策になると思う。今、大阪教育大学が大阪の教員養成機関としてあるが、それとは別に、公立大学で地域の教員を養成することは非常に重要な意義がある。(24年3月9日 財政総務委員会)
- 市大では、教授会による運営をなくし、組織で一番肝心であるマネジメント改革にしっかりと取り組んでいただきたい。元々ポテンシャルの高い市大が、世界に誇れる大学となるように、変えていってほしい。  
(24年5月11日 市大経営審議会 冒頭あいさつ)